

時事新報

事の着手を速にす可し

臺灣の賊徒掃蕩の計畫は既に定まりて目下着手中のよしなれば速くも来る十月前後には全島鎮定の效を見るものとす。然るに北は全く我手中に歸して其土地も狭からず取り敢へず施設を要する事業は多々なる可きに總督府の如き多数の官吏はありながら軍務の外は恰も手空ふる有様なるが如し我輩の解せざる所なり彼の軍制組織の如きは總督府の運動に自由を與へ叛民鎮定の功を急がしむるに於て大に效能ある可し甚だ可なりと雖も新領地の始末は單に叛民鎮定の一事のみならず目下に經營す可き事業は甚だ多端にして一日を過すれば一日の損あり何ぞ速に着手せざるや例へば臺北附近より新竹近傍に至る一圓の土地は何れも叛兵の巢窟にして舉て我軍に抵抗したるより過般來掃蕩を行ふて不退の徒は大抵疎に就きたるもの多く幸に免れたるものは何れにか逃走して行方さへ知れずと云へば其地方は恰も空虚の有様を呈したるものならず目下收穫の季節に際して滿目の黃雲稻田正に熟するものを見るものなく空しく鳥獸の啼びに一任するとは天物を暴殄するものと云ふ可し獨り稻田のみならず茶園なり砂糖畑なり遠に主人を失ふて荒蕪に歸せんとするものも多かる可し其始末は如何す可きや或は現に軍政多事の今日、斯る細事にまで注意の行届く可きに非ず好しや田畑が一時荒蕪に歸するも其地方たる一小部分に過ぎず今後數個月ならずして百事情に就くの曉には回復も容易なり意に介するに足らずとの説もあらんが軍政は自から軍政にして民政は自から民政なり屬地の鎮定一步を進むる毎に其善後の始末は自から之に任ずるものなる可し可し總督府には多数の文官あり細に注目して施設の宜しきを得ば可し利す可きものを損せずして濟むるも多かる可し我輩の聞く所に據れば目下内地の人民中には企業なり商賣なり種々の目的を以て臺灣行を望むもの甚だ多し唯特別の免許を受けたるものにあらずれば自由を渡航するを得ざるが爲めに止むを得ずして躊躇するものとせば一旦大にその自由を與ふるときは種々渡航して直に業に就き彼の田畑の如き一時たりとも荒蕪に付して收穫の利を空ふるものとばかり可し此邊の事は該地に在る官吏が最も注意す可き所にして一地方にても鎮定に歸するときは其處には直に内地人を移して業に就かしむるの計畫を定め全島掃蕩の曉には早く既に日本人の充滿を見るが如き決して困難事に非ず一日も早く航海の便を開て人民の渡航を自由ならしめんと我輩の敢て望む所なり或は目下正に賊徒の割削中にして動もすれば逆襲等の虞さへなきに非ず斯る土地に普通の人民を入込ましむるは甚だ危険なり又實際に出征の軍隊さへも後方の運搬とかく不行届にして時としては欠乏を感ずる其所に多数の人が種々渡航するときはさす困難を招すに至る可し

雜報

軍艦命名

○佛國海軍の欠點 佛國海軍提督フルニエー氏が自國軍艦の欠點を指摘し速力の遅緩なるを非難したるものとす。過日の本紙に記載したるが今又クレマンソー氏は同提督の所説を敷衍して云くフルニエー提督の論せし所は一々尤もにして余の只言片語する所なれども猶ほ其足らざる點を補はんか我が艦隊中遠隔の地方に派遣せるもの組織に就ては特に不満足に堪へざる事多し第一是等の巡洋艦の速力と云ひ武器と云ひ執りも不完全なるが如し加ふるに佛國は印度洋を初めその他東洋諸國に石炭貯蓄所もなければ船渠もなし斯くの如くにして焉ぞ國威を發揚するを得んや更に我輩の最も驚き入りたるは海軍參謀部の意見なりと云ふを聞くに我が海軍を擴張するに當りて標榜とする所は先づ英國と稱民政略上より衝突を起すが如き要なきものとし只他の諸外國に對抗するの力を養ふを以て足れりとするに在るなりと云ふの一事なり言語同斷の偏見にして佛國の威武を輝さんとする重任を身に負へる人々の意見としては到底受取り難し若し夫れ參謀部の計畫の如くにして安んぜんか一朝英國と利害相ひ背反するの時に際せば我は唯々彼の鼻息を窺ひて進退するの止むを得ざるに至らん蓋し國辱是れより大なるはなかる可しと

三浦公使の出發

○三浦公使の出發 新任公使三浦權輔氏は豫報の如く一昨夕九時五十分新橋發の終列車にて京城赴任の途に上りたり見送りの爲め同所に集りたるは伊藤總理、野村內務、板本農商務の各大臣、田中宮内、原外務の各大官、山縣大將を始め武官其他の人々にて中將は宗教界にも知人あれば倍倍も頗る多かりしと

新橋停車場の見送人

○新橋停車場の見送人 近來新橋停車場にては改札所の欄内に見送人の入り来るを謝絶し居れども見送る人、若くは見送らるる人次第にては此謝絶も暫時中止する事あり不公平なりとて悲訴するものあれども謝絶あるに拘はらず欄内に入込むものは警長の許可を受けたるなり警長に請ふて許されば不公平を感訴すべし此手續をもちて改札人に入場を断られたるとして苦情を訴ふるものは未だ手續を盡さざるものなりと例外的特許を得たる見送人は隨れり

大坂西區の大火

○大坂西區の大火 去る二十一日午後十一時十分とも思し大坂西區立賣場南邊より二丁目百五十八番屋敷東側の本機業佐藤千吉方の裏なる材木納屋より失火しわれよく叫ぶ間もむらせし十數日本打撃きたる日和に就き切つたる折柄なれば火勢愈々猛烈となり殊に當時烈風吹き寄つたるにより遂に人家七十八戸

壯士芝居は聴聞

○壯士芝居は聴聞 壯士芝居を見て彼是れの評を下すものあり誠に大間違にして芝居と云へば見るといふならんが壯士の興行は口にて任せて書生らしき口上を面白可笑しく立てられればは聞が欠けるゆゑ手足を動かして其面影を補綴するものなれば之を聴聞すべくして見るべからず目を閉じて之を聞き妙味あらば始めて之を發見すべきのみ故に芝居と云はんよりは寧ろ身振演説と稱して其口上の巧拙を評する位が此興行に對する頂上の事なるべしと壯士芝居の常連さへ物語れり

汽船の衝突

○汽船の衝突 去月二十九日暹羅國盤谷港に於てゴゴンとラングンと云ふ二船相ひ衝突しラングンと云ふ船は餘程の害損を被りたれどゴゴン船は船首を少しく傷けしのみ而して累全く後者にありと云ふ

西洋芝居雜説

○西洋芝居雜説 擲月庵主しら譯述 (十五) プース美談の事 千八百九十三年六月七日を一期に此世を去りし北米合衆國第一の悲壯劇名優エドワッソンの事とす。前篇にも陳ぶる所ありしが今亦プースに就ての美談を物語るに頃ば千八百七十七年の夏の事とす。プースは鐵道のプラットホーム(汽車に乗客からしめんが爲めステーションに設けたる長き土堤若くは棧橋)即ち我國のステーションに就て云へば彼の鐵道線路を中央に屋根にて蔽ひたる事と云ふ)に立ちて汽車の至るを待合せける折りしも其傍に一個の紳士の是れも汽車待合せと見えたるが已と同様にイみて其上に何やら深く思案を廻らし居る體に氣著きたり彼の圖にては我國と事變りて鐵道線路を自家の胃袋にて往來するものと實際の所、勝手次第を以て紳士はプラットホームを降り線路の上を歩行さつゝ尙ほも默考の爲體にて周圍のものを一切、拵られたるもの如く拾ひ此間に夫れ迄は氣を配りて見れば紳士は其前を歩行する所に在りしと氣を著る間もあらば矢に其胸に引込み袖にせしめを引上げてプラットホームへ引上げ



上海新報

各埠頭電車時刻表
 六時二十分
 六時三十分
 六時四十分
 六時五十分
 七時
 七時十分
 七時二十分
 七時三十分
 七時四十分
 七時五十分
 八時
 八時十分
 八時二十分
 八時三十分
 八時四十分
 八時五十分
 九時
 九時十分
 九時二十分
 九時三十分
 九時四十分
 九時五十分
 十時
 十時十分
 十時二十分
 十時三十分
 十時四十分
 十時五十分
 十一時
 十一時十分
 十一時二十分
 十一時三十分
 十一時四十分
 十一時五十分
 十二時